ですから、父母様自らが立てられた真なる愛に基き、皆さんも同様に父母様が望んでおられるみ旨に合うように、一人ひとりがすべてを全力投入し、全力投入し、さらに全力投入して、父母様と完全に一つになった基台の上に、永遠に授受できるような皆さんに成りますようにお願いしつつ、短い話ですが、これで終わらせていただきます。（拍手）

皆さん、先ほど歌手が歌を歌っている時に、立ち上がってその歌に酔い、踊る皆さんの姿を見て、非常に素晴らしいと思いました。私はここで話を終えて二部の時間は、皆さんの前で私の音楽を披露しようと思っています。（拍手）、音楽に酔うということは、本当に美しいものです。

芸術を好む人は神様の愛の価値を知っており、神の愛の対象であるために、このような調和を見て楽しんだり、喜んだりしながらこれを持ちたがり、これに触れたがり、これと永遠に生きたがるということを誰よりも私は理解します。私も非常にそのようなことを好む人間であります。

今後、遠からずして私たちの世界は訪れます。ですから皆さんは、これからは腕をまくってもかまいません。ここでもし、皆さんが父母様の望んでおられる基台の前に、皆さん自らを全力投入しようと確約するならば、私はきょうこの場で、今喉がかれていますが最善を尽くして歌ってみようと思っています。私はこの場で倒れてもかまいませんので、もしそのことを確約してくださるという方々は一度手を挙げて私に見せてくださるようにお願いします。（喚声、拍手）ありがとうございました。（拍手）

「真の父母様」の概念に関して

（第二十八回万物の日のみ言を中心として）

韓国統一思想研究院院長　李　相　憲

序　論

文鮮明先生が、韓国の十二都市で開かれた「文鮮明総裁モスクワ大会勝利報告大会」で語られたみ言と、「メシヤ宣布」及び「真の父母様宣布」の摂理的意義を考えてみたいと思います。

そして各大会ごとに集った数多くの群衆の中には、熱狂的に「真の父母様、万歳」を唱え、また真の父母様に関する朴社長の説明を聞いても、「私がなぜ、真の父母様万歳を唱えなければならなかったのか？　真の父母様とは具体的に何のことなのか？」と気になる人たちも多くいたと思います。

ですから、ここで真の父母様の概念を国民に分かりやすく解説して、国民を啓蒙するという事後措置が必要だと思われます。それでここに「真の父母様の概念に関して」という題目で、特に万物の日に語られたお父様のみ言を中心として「真の父母様の原理的な意味」を整理したものを招介します。

本　論

①神の恨みは人間に掛けられた偽りの愛の手錠のため

今回の全国民の「真の父母様歓迎大会」の大成功（全国

民の代表三十万名が真の父母様を熱狂的に歓迎した）で、神の恨みが晴れ始めました。（今度の全国巡回は神の恨みを晴らすためであった。神の恨みが晴れてこそ真の父母、真の子女、万物の恨みが完全に晴れる）。

すなわち「神の恨みが完全に晴れるためには、神様万歳！　真の父母様万歳！　真の子女様万歳！　真の国万歳！　という四つの万歳が唱えられなければならない。その時に万物の恨みまで完全に晴れる」「神の恨みが完全に晴れるためには人間に掛けられた偽りの愛の手錠が解かれなければならない」と言われました。

エバがサタンの偽りの愛（自己中心の愛）に引かれてサタンと性関係を結ぶことによって人間は堕落圏内に陥ったのです。この堕落のために、偽りの愛、偽りの生命、偽りの血統が現れました。すなわち愛も生命も血統も、みな真の愛、真の生命、真の血統を失ってしまい、人間は苦痛の中を（あたかも罪人が獄中生活をするように）さまよってきたのです。

これはあたかも偽りの愛によって手錠が掛けられたのと同じことです。したがって人間が罪（堕落）による苦痛から脱するためには、偽りの愛から脱して真の愛の中に移っていかなければなりません。これが偽りの愛の手錠を解く道なのです。

②人類の希望は理想社会の実現

人間はこのような手錠が掛けられていることも分からず、今日まで、家庭、氏族、民族、国家、世界を成して、その中で幸福を探そうとし、そのために科学を発展させ、思想を立て、宗教をつくって伝播し、芸術も発展させてきました。しかし、真の幸福を実現することにおいてみな失敗し、苦痛からの解放に失敗しました。

言い換えれば、人間は理想社会を実現しようといろいろ実験してみたが、すべて失敗に終ったのです。これをお父様は「民主主義も共産主義も実験済みで、儒教も仏教も実験済みで、キリスト教も回教も実験済みである」と表現されました。これは堕落した人間たちがメシヤなしに、自力で理想世界、幸福な社会の実現を試みようとしたことに対して、天は許諾したが、すべてが失敗に終ったことを意味するのです。

苦痛は偽りの愛の手錠による苦痛なので、人間が苦痛から解放されるためには、その偽りの愛の手錠が外されなけ

ればなりません。それではその手錠を外す鍵は何であり、だれがその鍵で手錠を外すのでしょうか。その鍵が正に神の真の愛であり、その鍵の持参者が正に神の子であられるメシヤなのです。すなわち、メシヤが神の真の愛をもって来られて、その真の愛でもって人類を解放されるのです。

③神の真理と愛は表裏一体

神の真の愛を伝えるには必ず神の真理が後に伴います。神の真理と愛は表裏一体の関係にあります。お父様はイエス様が「わたしは道であり真理であり命である」と言われたことに対して、「わたしは愛であり、道であり真理であり命である」と言わねばならなかったと教えてくださいました。

神の真理と愛が表裏一体であるということは、あたかも太陽光線が光と熱が一体化したものであるのと同じことです。それゆえ、メシヤ（完成された人間）は「理法の受肉」であり、「理法実体」であると同時に「心情実体」（愛の実体）なのです。（「完成人間は理法実体、人格実体、心情実体である」）

真理で悟らせ愛で抱くことによって、メシヤは万人をして人類の真の父母が神であることを悟らしめ、人類が神の子女の立場で互いに兄弟姉妹の関係を結び、愛し合うようにせしめることによって、人類を解放するのです。ところで人類が神の子女となるためには、神は無形の存在であってはならず、実体をもった姿として現れて、子女たちがその愛の姿を直接見、その愛の声を直接聞くことができ、また子女たちが将来父母となって、神に似る際の相似の基準となってくださらなければならないのです。

万一神が無形としてのみおられれば、いくら神が人類の父母だということを人類が悟ったとしても、その父母は無形の父母であり、他界した父母と同じであって、人類は実質的に孤児になるのです。孤児である兄弟同志は互いに闘うのが常となっているので、地上の紛争、対立、葛藤は実質的には消え去らないのです。したがって、真の父母である神が人類をして神の真の愛を実践させるためには、その姿が目に見え、その声が耳に聞こえるように実体をもって現れざるをえないのです。

④神の体はアダム

それでは、神はいかなる実体をもつべきでしょうか。人

間の実体は、地上では肉身と霊人体であり、天上（天上天国）では霊人体です。その中で永遠の実体は霊人体のみです。したがって、神が体をもって現われるためには、人間の霊人体の姿を保たなければなりません。なぜならば、肉身は地上生活の時にのみ必要であり霊人体は永遠であるからです。

神は本来無形であるために、肉的五官はもちろん霊的五官にも見えません。しかし、同時に神は無限形でもあられるから、必要な時には、一時的に、いかなる形にでも現われることができます。神は柴の中の火の炎として現われたし（出エジプト記三章二節）、かすかな細い声で現われたこともあり（列王紀上一九章一二節）、時には山や波の姿で現われることもあります（お父様が四十日断食祈祷中に霊界で初めて会った神）。

そのような神が霊人体の姿をするということは、永遠不変の一定の霊人体をもって現われることを意味します。この霊人体はもちろん人間の霊人体です。人間のほかには霊人体はないからです。どのようにしてそのようなことが可能であるのでしょうか。それは人間が神と一体となることによって可能なのです。

ところで、人間は個性真理体であるために、各々違う特性をもっています。このような特性の異なる数多くの人間（霊人体）の中で、どの霊人体を神が被られるというのでしょうか。しかしこのような疑問は不必要です。なぜなら、被造世界に最初に現われた人間は一人しかいないからです。それがアダムでした。すなわち、アダムが堕落しないで完成して、神に完全に似て、神と一体となるようになっていたのです。

最初の人間アダムが堕落しなかったならば、成長して神に完全に似ると同時に人類の祖先となったはずです。このようなアダムが神に完全に似て一体となれば、そのアダムの姿が神の姿になり、その声が神の声となり、その愛とその言葉がそのまま神の愛、神のみ言となったのです。

⑤神の体となったアダム・エバが真の父母

ここで次のような疑問が生ずるであろうと思います。人間はだれでも完成すれば神に似るようになっているといわれます。そうだとすれば、人間はだれでも神と一体となって神の体（霊人体）になり、神が無数に多くなって、神が唯一無二であるということと異なるのではないかという疑

問です。

事実、人間はだれでも完成すれば神と一体となります。すなわち人間が神になるのです。（お父様の教え……一九九〇年五月二十二日、光州での集会を終えて漢南洞で、「霊界の本を見れば妻が夫の体の中に完全に吸収されて一つになるという記録がありました」という報告に対して、「それは人間が完成すれば神になるということを意味するのである」と答えられた）。「天上天下唯我独尊」「天人合一」等は、みな完成した人間は神となるということを示した概念であり、お父様がしばしば引用されるものです。

しかし、神がアダムの霊人体を被るということと、アダムの後孫の霊人体が完成して神となるということとは次元が違います。アダムは祖先であって一人ですが、その後孫は無数に多いからです。すなわち、アダムの霊人体を被った神は文字どおり絶対神ですが、その後孫たちの完成された霊人体は完熟して、神の愛と共鳴しうる基準に到達しているだけで、神の体（霊人体）それ自体にはなりえないのです。しいて後孫たちの完成した霊人体を神と表現するとすれば、それは相対的な神であって、お父様はこのような神を「霊神」と呼ばれました。

ともかくアダム・エバが完成して、神の愛すべてを受けて神と一体となれば、彼が正に人類の祖先になると同時に、体をもって現われた神になるのです。このように神の体となったアダム・エバ、あるいはアダム・エバの体を被った神を「真の父母」と呼ぶのです。

神は唯一無二であり絶対者であり永遠不変であるために、体をもったとしても、その絶対性、永遠不変性には変わりありません。このような神を真の父母とし、人類はその神すなわち真の父母様の愛を中心として、永遠に平和と歓喜と幸福を享受するようになり、その世界には苦痛、悲嘆、闘争、葛藤は探そうとしても探すことができないようになるのです。

しかし、アダム・エバは完成を眺めながら成長する過程で堕落してしまいました。サタンの誘惑に陥ってサタンと不倫の関係を結んだのです。本来、アダム・エバは神の愛によって神の生命を引き継いで、神の血肉（血統）として創造されたにもかかわらず、サタンと不倫の関係を結び、その後孫たちはサタンの愛によってサタンの生命を引き継ぎ、サタンの血統として生まれるようになって、今日に至ったのです。

⑥異性間の愛による生命の発生は原理原則

ここで明らかにしておきたいことは、「異性間の愛（性行為）によって生命が生まれるのは原理原則であるために、いつ、どこでも、その愛が神を中心としているか否かに関係なく、この原則は成立し貫徹する」という事実です。

したがって、サタンと不倫の関係を結んで神を離れたアダム・エバが性的愛で性関係を結べば、この原理原則によって生命が生まれるのです（サタンは生命を造りえない）。しかし、その生命体の血はサタンによって汚された血です。肉眼で見ても本然の清い血と変わりはありませんが、霊的に見れば著しい相異があるのです。サタンの血は濁って黒いが、神側の血は澄んで清いのです。

このような事実をお父様は「堕落によって人間はサタンの愛、サタンの生命、サタンの血統を引き継いだ」と表現されたのです。ところで、サタンの愛は自己中心的であって、他人を優先的に愛することを知りません。他人を愛するとしても自己に利益がある時にのみ愛するのです。このような人間たちの住む社会は、必然的に対立と憎悪と孤独と苦痛に満ちた社会、各種の犯罪が蔓延する社会とならざるをえないのです。なぜならば、堕落した人類には真の父母がいないからです。真の父母は真の愛をもった方であって、その後孫はその愛の中で互いに愛する生活、互いに兄弟を慈しむ生活をするようになるので、そこには対立や憎悪や葛藤はありえないのです。

俗世間にも、たとえ罪の世界であっても、宗教生活をする家庭では、父母が子供を限りなく愛する家庭においては、その子供たちは決して争わずに成長します（但し、そのような父母は多くないのみならず、跡を継いだ子供がそのような父母となる例はいっそう少ない。それゆえ、後孫の家庭は結局悪くなる）。

とにかく家庭の場合と同様に、人類においても、神の真の愛を施す真の父母が中心となれば、そこには憎しみも闘争も消えて、永遠の平和と喜びと幸福の理想世界が実現されるのです。そして人間が闘争、苦痛、悲哀、疎外、憎悪等から解放されるに際して、人類の真の父母がいかにありがたい方であり、またいかに必要な方であるかを知ることができるでしょう。

⑦本来、アダム・エバは人類の真の父母

アダム・エバが堕落しなかったならば、彼らはまず地上で人類の真の父母（人類の真の祖先）となるだけでなく、天上でも永遠に真の父母となったはずであり、その後孫たちも代々、その真の父母に似た真の愛の父母となって、子女たちを愛で育んだならば、今日までの人類歴史は真の愛を中心とした真・善・美の世界史、統一と平和と幸福の世界史になったことでしょう。

ところが、アダム・エバの堕落のために、人類は真の父母を失い孤児の身の上になって対立、苦痛、悲哀、疎外の中で生きてきたのであり、そうしながらもこのすべての悲劇と苦痛から脱しようと身悶えしてきたのです。

孤児たちが苦痛から免れる道は、父母を探す道であり、父母に出会う道です。同様に、人類が今日まで六〇〇〇年間、苦痛と非哀から免れようと身悶えをしてきたにもかかわらず、依然として苦痛の中にあるのは真の父母に会えなかったからであると見ることができます。

言い換えれば、人類は孤児の立場で六〇〇〇年の間、数多くの闘争と苦痛と悲しみと嘆きを経験しながら、無意識のうちに真の父母を探し回ってきたにもかかわらず、いまだに相いまみえることができなかったとみることができるのです。既に述べたように、真の父母は、人類を導いて彼らを子女として抱くために、真の真理と真の愛を持ってこられる方なのです。

⑧真の父母はすべての宗教の希望の主体

真の父母が地上に来られるということは、人類の無意識のうちの希望であるのみならず、既に歴史の初めから天が定めておいたものです。したがって、この事実がいろいろな宗教において、予言として記録されてきました。それが正にキリスト教のメシヤの再臨、仏教の弥勒仏の来臨、儒教の真人の来臨、天道教の崔水雲の再臨、鄭鑑録の正道令の出現等の思想なのです。

ところで、このように様々に呼ばれる再臨の主人公たちは、それぞれ別の人ではなく、同一人物をそれぞれの宗教によって様々に表現したものにすぎないのです。すなわちキリスト教でいう再臨のメシヤ一人を様々に表現したのです。この再臨のメシヤが第三のアダムの資格で来られて、エバを探し立てて人類の真の父母になり、真の真理と真の愛でもって全人類をすべての苦痛と拘束と悲劇から解放し、永遠の平和と福楽の世界に安住させるのです。これが

正に再臨のメシヤが来られて、人類を偽りの愛の手錠から解放されるという言葉の真の意味なのです。

　この事実が、聖書には「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった」（ヨハネの黙示録二一章一節）、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」（ヨハネの黙示録二一章三節から四節）という表現で記録されているのです。

　この聖句は、再臨のメシヤが来られて体をもった神となり、人類を苦痛と悲しみから永遠に解放して、永遠無窮に新天新地で真の父母と共に福楽を享受するようにするという意味なのです。このような驚くべき歴史的な再臨の日がついにこの地に臨み、かくも民族が待ちこがれ、人類が待ちこがれた真の父母様がついに出現したのですが、その方が正に、今回モスクワ大会を終えてサタン側の最高頂上を自然屈伏させ、錦衣を着て国へ帰られ、全国民から大々的な歓迎を受けられた文鮮明総裁ご夫妻なのです。

結論

　したがって、すべての民族とすべての人類は、これからはためらわずに、この真の父母様を昼夜を問わず各自の真の父母として心の中で侍りながら、生きるように努力せねばならないでしょう。

　そのように一定の時期が来れば、それからはだれでも地上で福楽の生活を享受するのみならず、あの世、すなわち霊界に行っても永遠に真の父母様と共に永福を受け永生するのです。そのかわり全国民は、真の父母様が推進しておられる南北統一の大事業に一人残らず積極的に参加しなければならないでしょう。

　すべての人が宗教、思想、理念を超越して、神主義で武装して、南北統一の偉業に参加しなければなりません。その統一の課題の前段階作業が正に文総裁が開始された統班撃破運動なのです。全国民は真の父母様のお供をして、統班撃破に向かって総進軍しなければなりません。この統班撃破運動が成功する時、南北統一はたやすく達成されることでしょう。（この文章は、韓国の季刊『統一思想』一九九〇年夏季号から翻訳、転載致しました。文責編集部）

信仰手記『証言』

平壌、主の十字架の地で侍って（後編）

激しい迫害の中でも、先生の完全な犠牲の愛の中で私たちは守られ、塞がれたような道でもそれを乗り越えてきました。

金仁珠（キム　イン　ヂウ）

様々な試練を越えて

　四十三年前ですが、とてもレベルの高い食口がいました。その当時既に彼は、先生と、「蘇生期は霊形体、長生期は生命体、完成期は生霊体」などという話をしていました。しかし、彼のお祖父さんがとても反対しました。その家の大きな庭の横で私たちが礼拝すると、そのお祖父さんは、私たちの周りを、行ったり来たりしながら先生の悪口を言いました。するとその人は、その夜に急に亡くなってしまいました。

　またある婦人は、夫が激しく反対するので、婦人科の病気にかかってひどい出血が始まりました。産婦人科に行っても出血が止まらないので、とうとうその夫は婦人に、「では、あなたの好きなようにしなさい」と言いました。それでその人は心を込めてきれいな洋服に着替えて、先生の前に座ったら、出血が止まったのです。それを見てあんなに反対していた夫は、とても喜んでたくさんのカルビを先生に差し上げました。

　私の家でも、今まで私を愛してくれていた夫が反対し始